

音響制作科

卒業認定の方針（ディプロマ・ポリシー：DP）

■ 育成人材像

- ① 舞台スタッフ、コンサートスタッフとして必要な舞台音響、舞台照明の総合的な専門知識を持ったオペレーションや管理ができる。
- ② 音楽や歌唱に限らず、放送、映像、映画、DVD等、多様なメディアに対応できる技術と創作性を身に付けてレコーディングエンジニアとして業務を遂行することができる。
- ③ 多くの音響関連専門機器の操作技能を身に付け、MAエンジニアとして整音作業を円滑に遂行することができる。

■ 身に付ける能力

- ① 舞台美術、舞台照明、舞台音響の基本から応用まで学び、舞台機構調整技能検定の合格に必要な知識と技能を身に付け、PAスタッフとして実務に活用できる。
- ② レコーディングの基本から応用まで学び、Pro Tools技術認定試験合格に必要な知識と技能を身に付け、レコーディングエンジニアとして実務に活用できる。
- ③ 映像音響処理技術者技能認定資格試験およびサウンドレコーディング技術認定試験合格に必要な知識を身に付け、MAスタッフとして実務に活用できる。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー：CP）

■ 教育課程編成の方針

- ① 豊かな教養と社会常識を身に付けるために、「就職対策」を各年次に配置する。
- ② 1年次は音響分野において必要な音響、照明、映像、電気およびレコーディングの基礎的知識、PA機器、DAWアプリケーションの基本的操作能力を身に付けるための専門科目を配置する。
- ③ 1年次は通年で企業と連携した実習科目を配置する。
- ④ 2年次前期は音響分野において必要な放送システムの基礎的知識を身に付けるための専門科目を配置する。
- ⑤ 2年次は音響分野において即戦力として活躍できる実践力を身に付けるための専門科目として、1年次に身に付けた知識と能力を高める演習を通年で配置する。

■ 授業実施の方針

- ① キャリア教育科目である「就職対策」はオンラインコンテンツを利用した一般常識の学修、履歴書・エントリーシートの記述指導、面接訓練等の実践トレーニングとする。
- ② 音響分野における知識修得を目的とした科目は講義形式で行うことを基本とし、知識の定着のための演習はグループワーク形式で行う。
- ③ 音響業界で即戦力として活躍できる実践力を身に付けるため、PA機器、照明機器およびDAWアプリケーションの操作技能を修得するための専門科目は、実習形式で行う。なお、作品制作科目においては年間3～4課題程度の作品を作成し、設置・設定確認を主とする科目においては、主要バリエーションを目視および聴音で確認する。
- ④ 実践力を身に付けるために実施する企業と連携した授業は、PA機器の配置および操作のバリエーションを学内ホールに学内のPA機器を用いて疑似再現することで身に付ける。

■ 学修成果評価の方針

- ① 講義科目は、定期試験、小テスト、レポート、授業に取り組む姿勢をもとに総合的に評価する。各科目の評価方法はシラバスに記載する。
- ② 実習科目は、課題の提出状況、作品の完成度、授業に取り組む姿勢をもとに総合的に評価する。各科目の評価方法はシラバスに記載する。